

# 宮本裕基のスッキリわかる マクロ経済学

公務員試験・中小企業診断士・不動産鑑定士・公認会計士などの

**資格試験受験生にオススメ!**

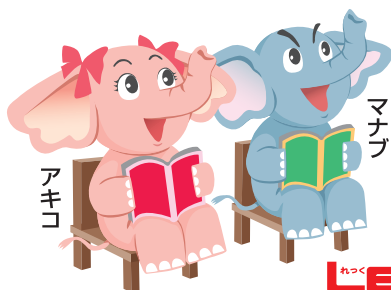
対話形式、個別指導感覚、  
キャラクターのアシストで  
経済学をスッキリ解決!



ユウゾウ先生

宮本  
裕基

LEC東京リーガルマインド専任講師



アキコ

マナブ

LEC 東京リーガルマインド 編著

# は し が き

## 〈本書のねらい〉

公務員試験・資格試験を目指す方の中には、経済学は理解が難しく苦手だという方も数多く見受けられます。しかし、経済学は段階を踏んで理解していけば、決して得点できない科目ではありません。本書は経済学の初歩から丁寧に説明しています。一步一步階段を上るように無理なく学習を進めていくことで、本書を終えるころにはきっと経済学を得点源とすることができるでしょう。

本書はマクロ経済学編となります。ミクロ経済学については別冊になっています。

## 〈本書の対象〉

公務員試験をはじめ、不動産鑑定士、中小企業診断士、証券アナリスト、公認会計士といった経済系の資格を目指す方など、経済学を理解したい方に幅広くご利用いただけます。

## 〈本書の特長〉

### 1 経済学のベテラン講師によるわかりやすい解説

本書は長年LEC公務員講座で経済系科目を担当している宮本裕基LEC専任講師による書き下ろしです。長年の経験から得られた経済学理解のポイント、コツを伝授します。

### 2 対話形式でわかりやすい解説

本書はユウゾウ先生と生徒のマナブ君、アキコさんとの会話形式になっています。初学者が抱きがちな疑問点について、ユウゾウ先生が語りかけるように解説します。

本書をご活用いただき、最終合格を勝ち取られることを心より祈念しています。

なお国家公務員試験について、平成24年度から国家Ⅰ種は国家総合職区分に、国家Ⅱ種は国家一般職（大卒程度）区分に名称が変更になりますが、過去問については出題当時の名称を使用させていただいております。みなさまのご理解のほど、お願い申し上げます。

2012年1月吉日

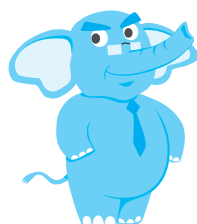
株式会社 東京リーガルマインド  
LEC総合研究所 公務員試験部

# はじめに

資格を取得してキャリア・アップや転職、起業をしたい！ 公務員試験に合格して公務員になりたい！ この本を手にするほとんどの方々は、そんな思いを持っていらっしゃると思います。しかし、特に文系学部出身者や大学での学問から離れてある程度の時間が過ぎていく方にとって、第一印象が最も“良くない”科目は、経済学なのです。短い時間で合格に足る実力を身に付けたい！ と思っている皆さんからの声を集約してみると、学習を始める前に最も難しそうで最も時間がかかりそうに見える科目が経済学、経済原論のようです。なぜなのでしょうか？

数式が出てくる、グラフを活用しなければならない、用語が難しそう、暗記だけでは点が取れないらしい、新聞やニュースを聞いて最も難しくてわかりにくいテーマが経済関連のものだ、等がその理由としてよく挙げられます。どれもある程度は当たっていると思います。ところが不思議なことに、講義を聴いて、そういった点を乗り越えた後には得意科目になってしまう方が多いのも経済学なのです。ただし、きっと自学自習だけではそのようになることは難しかったのではないかと思います。やはり講義形式での、講師と受講生との間の様々なやりとりや休憩時間中などにおける受講生との質疑応答が大きなポイントなのでしょう。

そこで本書では、講義形式・会話形式で学習が進みます。生徒であるマナブ君とアキコさんからの質問や疑問は、日頃から受講生が抱きやすいものばかりで、そしてそこには、経済学を理解するうえでの重要な考え方が潜んでいるのです。登場するキャラクターについて紹介します。



### ユウゾウ先生

資格試験を目指す受講生をサポートする講師としての経験から、優しくわかりやすく経済学を教えてくれる。具体例を豊富に出して、身近なものをイメージしながら効率的に理解してもらえることを目指している。



### マナブ君

ちょっぴり数学に苦手意識を持っているけれど、元気に素直に前向きに経済学に取り組んでいて、どんどん質問してくる憎めないキャラクター。



### アキコさん

成績優秀で学級委員長タイプの容姿端麗(?)なキャラクター。素直な性格で、時々先生をびっくりさせる鋭い質問をする。

この生徒たちに共感をしていただきながら、読み進むにつれて経済学の基本的な考え方を身に付けてもらえたら、私としては最高です。そしてまたいつか、過去問を実際にどんどん解けるようになることを目指した本が、この続編として出版されて皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

それでは、経済学という長い道のりに元気で旅立って行ってください！

2007年6月吉日

LEC東京リーガルマインド専任講師  
宮本裕基

# C O N T E N T S

はしがき  
はじめに  
本書の効果的活用法  
難易度 & 出題予想率



## 講義を始める前に…



Part 1	0-1	マクロ経済学の基本的な考え方 ～ケインズ派と古典派～	2
Part 2	0-2	数式について	7



## 第1部 国全体の経済活動



Stage1	国民経済計算	11	
Part 1	1-1-1	GDPとは	12
Part 2	1-1-2	帰属計算	16
Part 3	1-1-3	GNI（GNP）とは	22
Part 4	1-1-4	三面等価の原則	25
Part 5	1-1-5	【補論】“名目”と“実質”	29
Part 6	1-1-6	【補論】“ストック”と“フロー”	32

Stage2	産業連関表	35
Part 1	1-2-1	産業連関表の構造 ..... 36
Part 2	1-2-2	投入係数の意味 ..... 44
Part 3	1-2-3	数量方程式の活用 ..... 48
Part 4	1-2-4	【補論】雇用量への波及効果 ..... 54



## 第2部 財市場の分析



Stage1	総需要と総供給	～45度線分析に向けて～	59
Part 1	2-1-1	「セイの法則」と「有効需要の原理」	60

Part 2	2-1-2	総需要と総供給	64
Part 3	2-1-3	消費関数	68
Part 4	2-1-4	貯蓄関数	73
Part 5	2-1-5	投資関数	75
Part 6	2-1-6	政府支出と租税について	77
Part 7	2-1-7	輸出と輸入について	79
Part 8	2-1-8	【補論】投資の限界効率論	81

## Stage2 国民所得の決定 ～45度線分析～ 83

Part 1	2-2-1	国民所得の決定（財市場の均衡）	84
Part 2	2-2-2	【補論】ISバランス論	91
Part 3	2-2-3	デフレギャップとインフレギャップ	94
Part 4	2-2-4	総需要管理政策	100
Part 5	2-2-5	乗数効果の意義とメカニズム （45度線分析との関連性）	107
Part 6	2-2-6	投資乗数	113
Part 7	2-2-7	政府支出乗数	116
Part 8	2-2-8	租税乗数（減税乗数）	119



## 第3部 貨幣市場の分析



## Stage1 貨幣需要について 123

Part 1	3-1-1	貨幣とは ～貨幣の3機能～	124
Part 2	3-1-2	貨幣を“必要”とする動機	128
Part 3	3-1-3	取引需要	133
Part 4	3-1-4	債券とは ～資産市場について～	136
Part 5	3-1-5	債券価格と利率との関係	138
Part 6	3-1-6	投機的需要	143

## Stage2 貨幣供給（マネーサプライ）について 153

Part 1	3-2-1	貨幣供給（マネーサプライ）	154
--------	-------	---------------	-----

Part 2	3-2-2	ハイパワード・マネー .....	157
Part 3	3-2-3	貨幣乗数（信用乗数） .....	159
Part 4	3-2-4	中央銀行の役割 .....	164
Part 5	3-2-5	金融政策の具体的手段 1 ～公定歩合操作～ .....	166
Part 6	3-2-6	金融政策の具体的手段 2 ～預金準備率操作～ .....	169
Part 7	3-2-7	金融政策の具体的手段 3 ～公開市場操作～ .....	175
Part 8	3-2-8	信用創造 .....	178

### Stage3 貨幣市場の均衡について 183

Part 1	3-3-1	貨幣市場の均衡 ～ケインズ派～ .....	184
Part 2	3-3-2	古典派の貨幣数量説とは .....	188
Part 3	3-3-3	マーシャルの $k$ の意義 ～ケインズ派との比較～ .....	190

## ●●● 第4部 財市場と貨幣市場の同時分析 ～IS-LM分析～ ●●●

### Stage1 財市場の分析 ～IS曲線～ 193

Part 1	4-1-1	IS 曲線の定義と導出 .....	194
Part 2	4-1-2	財市場における超過需要と超過供給 ....	198
Part 3	4-1-3	財政政策と IS 曲線のシフト .....	201

### Stage2 貨幣市場の分析 ～LM曲線～ 205

Part 1	4-2-1	LM 曲線の定義と導出 .....	206
Part 2	4-2-2	貨幣市場における超過需要と超過供給 ....	210
Part 3	4-2-3	金融政策と LM 曲線のシフト .....	216

### Stage3 財市場と貨幣市場の同時均衡 219

Part 1	4-3-1	財市場と貨幣市場の同時均衡および調整過程 ....	220
--------	-------	---------------------------	-----

Part 2	4-3-2	財政政策の効果	225
Part 3	4-3-3	クラウドニング・アウト	228
Part 4	4-3-4	金融政策の効果	230

## Stage4 その他のIS-LM分析 ～特殊なケース～ 233

Part 1	4-4-1	金融政策が無効になるケース1 ～流動性のワナのケース～	234
Part 2	4-4-2	金融政策が無効になるケース2 ～投資の利子弾力性ゼロのケース～	238
Part 3	4-4-3	財政政策が無効になるケース1 ～貨幣数量説ケース～	242
Part 4	4-4-4	財政政策が無効になるケース2 ～実物利子論ケース～	245



## 第5部 労働市場の分析



### Stage1 古典派による労働市場の分析 251

Part 1	5-1-1	労働需要	252
Part 2	5-1-2	労働供給	258
Part 3	5-1-3	労働市場の均衡	263

### Stage2 ケインズ派による労働市場の分析 269

Part 1	5-2-1	労働需要	270
Part 2	5-2-2	労働供給	272
Part 3	5-2-3	労働市場の均衡	276
Part 4	5-2-4	【補論】失業の分類	279



## 第6部 財市場、貨幣市場、労働市場の同時分析 ～AD-AS分析～



### Stage1 財市場、貨幣市場の同時均衡 ～AD曲線～ 283

Part 1	6-1-1	AD曲線の定義と導出	284
--------	-------	------------	-----



Part 2	6-1-2	A D 曲線のシフト	292
--------	-------	------------	-----

## Stage2 労働市場の均衡 ～A S 曲線～ 297

Part 1	6-2-1	A S 曲線の定義	298
Part 2	6-2-2	古典派の A S 曲線	300
Part 3	6-2-3	ケインズ派の A S 曲線	304
Part 4	6-2-4	AS 曲線のシフト ～サプライサイド学派～	315

## Stage3 財市場、貨幣市場、労働市場の同時均衡 ～A D－A S 分析～ 321

Part 1	6-3-1	A D－A S 分析 1 ～ケインズ派～	322
Part 2	6-3-2	A D－A S 分析 2 ～古典派～	326
Part 3	6-3-3	A D－A S 分析 3 ～サプライサイド学派～	328



## 第7部 インフレについて



### Stage1 インフレの分類 331

Part 1	7-1-1	インフレ発生原因に基づく分類	332
Part 2	7-1-2	インフレ進行速度に基づく分類	335

### Stage2 フィリップス曲線 337

Part 1	7-2-1	フィリップス曲線とは	338
Part 2	7-2-2	物価版フィリップス曲線	340
Part 3	7-2-3	ケインズ派によるフィリップス曲線に対する考察	344
Part 4	7-2-4	自然失業率仮説	347
Part 5	7-2-5	合理的期待形成仮説	358



## 第8部 国際マクロ経済学



### Stage1 国際収支と外国為替 363

Part 1	8-1-1	国際収支とは	364
--------	-------	--------	-----

Part 2	8-1-2	外国為替市場 .....	369
Part 3	8-1-3	“円高・円安”と“輸出・輸入”との関係 ...	375
Part 4	8-1-4	マーシャル＝ラーナー条件とJカーブ効果 ...	378
Part 5	8-1-5	変動相場制と固定相場制 .....	381
Part 6	8-1-6	【補論】不胎化政策 .....	384

## Stage2 I S-LM-BP分析 387

Part 1	8-2-1	B P 曲線の定義と導出 .....	388
Part 2	8-2-2	B P 曲線の形状と国際収支 .....	390
Part 3	8-2-3	変動相場制下での財政政策 .....	395
Part 4	8-2-4	変動相場制下での金融政策 .....	398
Part 5	8-2-5	固定相場制下での財政政策 .....	401
Part 6	8-2-6	固定相場制下での金融政策 .....	404

### ミクロ経済学 目次

講義を始める前に...

- 第1部 消費者の行動
- 第2部 生産者の行動
- 第3部 完全競争市場
- 第4部 不完全競争市場
- 第5部 市場の失敗
- 第6部 国際貿易論



# 本書の効果的活用法

## 部ガイダンス

経済学を初めて学習する人にとって“スッキリと”理解できるように、各部でどのような内容の学習をするのかについて整理しました。

## Stageガイダンス

各Stageで理解すべき内容や学習すべきポイントについてまとめました。

## 第1部 国全体の経済活動

国全体の経済を議論するためには、国全体の経済活動を定義しなければなりません。そこでここでは、国全体の経済活動の定義に関連するさまざまな事項を学習します。理論的な難しさはありませんが、これから理論を学習するにあたってのベースとなる部分ですから、十分に理解するように努力してください。

## Stage 1 国民経済計算



一国全体の経済活動を把握して、経済について議論したり国や地方による経済政策を実施していくためには、その基本としてのデータが必要になります。経済活動の結果としてのデータである資料は、経済統計とも呼ばれますが、ここでは、その統計資料の存在に於ける「国民経済の計算」について学習します。

## 本文

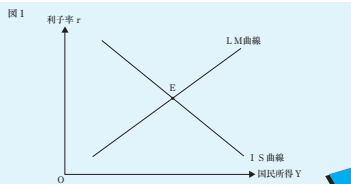
ユウゾウ先生とマナブ君、アキコさんが会話しながら学習を進めています。ユウゾウ先生の過去の経験や、いろいろな生徒さんたちから受けた過去の質問、誰もが間違えそうな部分を織り交ぜながら、3人(3頭?)の性格を楽しみつつ会話を読み進めましょう。みなさんもいつの間にか経済学についての理解を深めてしまってください!

## 図表

経済学を“スッキリと”理解し、本試験の問題を“スッキリと”解くために、図や表はとても大事な“武器”です。何度も何度もよく見て、自分で描いてみることも良いでしょう。

### Part 1 4-3-1 財市場と貨幣市場の同時均衡および調整過程

- ユウゾウ先生: ここでは、財市場と貨幣市場の同時均衡について学習しましょう。
- マナブ君: よろしくお願います。
- アキコさん: いままでに、IS曲線とLM曲線について学習しました。
- ユウゾウ先生: がんばりました。(笑)
- マナブ君: ここでは、IS曲線とLM曲線を1つの図にして、均衡について考えることにしましょう。
- アキコさん: よろしくお願います。
- ユウゾウ先生: IS曲線とLM曲線を図に表します。すると1点で交わるね。



- マナブ君: 点Eで均衡するのですか?
- ユウゾウ先生: そうですね。市場経済であれば、競争原理が働き、財市場が均衡しますね。また貨幣市場も均衡しますね。そうすると最終的には両方が均衡するわけですから、点Eに収束するわけです。つまり点Eが均衡点になり、その国の国民所得と利子率が決まりますね。

**ポイント**  
財市場と貨幣市場の同時均衡: IS曲線とLM曲線の交点で均衡してその国の国民所得と利子率が決まる

## アイコン

ユウゾウ先生の出番のところです。詳しくは、次のページを見てね!

\*\*\* Exercise \*\*\*

地方上級 2003 年

封鎖経済の下で、政府支出が3,000億円増加された場合、乗数理論に基づいて計算したときの国民所得の増加額はどれか。ただし、限界消費性向は0.8とし、その他の条件は考えないものとする。

- 1 2,400 億円
- 2 3,750 億円
- 3 5,400 億円
- 4 1兆2,000 億円
- 5 1兆5,000 億円



解説 正解 5

租税を無視して均衡国民所得を求めると、以下ようになる。

$$Y = C + I + G$$

$$C = C_0 + 0.8Y$$

このCをYに代入する。

$$Y = C_0 + 0.8Y + I + G$$

$$0.2Y = C_0 + I + G$$

$$Y = \frac{1}{0.2}(C_0 + I + G) \dots\dots(1)$$

いま、政府支出を増加させるので、政府支出乗数を求める。よって、①式に注目して、YをGで微分する。

$$\frac{\Delta Y}{\Delta G} = \frac{1}{0.2}$$

$$\Delta Y = 5 \Delta G$$

Exercise

最新の本試験からセレクトした過去問です。基本的で標準レベルの問題を選びましたので、理解した内容の確認にぜひ活用してください!

解説

理解してきたはずの内容を思い出しながらかいて、正解を確認してください。不明な点があったら、もういちど本文を読み直してみよう!きっとヒントが見つかるはずだよ!

ポイント

経済学を理解するうえでとても重要で“はずせない”部分の確認です。しっかり頭に入れてしましましょう!

公式

特に計算問題に対応するうえで、“そのまま暗記してしまうとお得”な箇所をピックアップしました。

ことばの意味

経済学として重要とされている用語の意味を確認しました。何回でも見直してください!

補足

文字通り、ちょっとした補足です。みなさんにとって、参考になりそうなことにふれてみました。気軽に読んでみよう!

アドバイス

ミスしやすいところ、勘違いして覚えてしまう人が多いところについて、ミスや勘違いを防ぐために確認しました。



web 1

先生が特につまづきやすいところをweb講義でワンポイント解説しています。詳しく勉強したい人は、ネットからアクセスして確認しよう!下の数字は講義番号です。

# 難易度 & 出題予想率



## 難易度について

各種の資格試験合格を目指して学習する初学者からの声や模擬試験での結果などに基づいて、各ステージでの習得難易度を表示しました。易しい内容→難しい内容という順にA→B→C→Dとしてあります。



## 出題予想率について

資格試験別に近年の過去問のデータに基づいて出題される可能性を予想して表示しました。予想される可能性の高いもの→低いものという順に◎→○→◇→△としてあります。

	難 易 度	資格試験別の出題予想率						
		国 I	国 II	地 上	国 税	公 認	中 小	不 動
第1部 国全体の経済活動								
Stage 1 国民経済計算	A	◇	◎	○	◎	○	○	○
Stage 2 産業連関表	C	○	◇	○	○	△	△	△
第2部 財市場の分析								
Stage 1 総需要と総供給 ～45度線分析に向けて～	A	◇	◎	○	○	◇	◇	○
Stage 2 国民所得の決定 ～45度線分析～	B	◇	◎	◎	◎	◇	◇	○


第3部 貨幣市場の分析								
Stage 1 貨幣需要について	B	◇	◇	○	◇	○	◎	○
Stage 2 貨幣供給(マネーサプライ)について	B	◇	◇	◎	◇	○	○	○
Stage 3 貨幣市場の均衡について	B	○	△	△	△	○	◎	○
第4部 財市場と貨幣市場の同時分析 ～IS-LM分析～								
Stage 1 財市場の分析 ～IS曲線～	B	◇	○	○	○	◎	◎	◎
Stage 2 貨幣市場の分析 ～LM曲線～	C	◇	○	○	○	◎	◎	◎
Stage 3 財市場と貨幣市場の同時均衡	C	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎
Stage 4 その他のIS-LM分析 ～特殊なケース～	D	○	○	○	○	○	◎	◎
第5部 労働市場の分析								
Stage 1 古典派による労働市場の分析	C	◇	△	◇	△	○	△	◇
Stage 2 ケインズ派による労働市場の分析	B	◇	△	△	◇	○	△	◇
第6部 財市場, 貨幣市場, 労働市場の同時分析 ～AD-AS分析～								
Stage 1 財市場, 貨幣市場の同時均衡 ～AD曲線～	C	○	◎	△	◎	○	△	○
Stage 2 労働市場の均衡 ～AS曲線～	B	◇	○	△	○	○	△	○
Stage 3 財市場, 貨幣市場, 労働市場の同時均衡 ～AD-AS分析～	C	◎	◎	△	○	◎	△	○
第7部 インフレについて								
Stage 1 インフレの分類	A	△	△	◇	△	△	◇	△
Stage 2 フィリップス曲線	D	◎	◇	○	○	○	◇	○
第8部 国際マクロ経済学								
Stage 1 国際収支と外国為替	B	△	△	○	△	◎	◎	◎
Stage 2 IS-LM-BP分析	C	◎	◎	○	◇	◎	◇	○



(注) 表内で用いられている省略表示の意味は、以下の通りです。


国Ⅰ→国家Ⅰ種行政職試験→(新試験) 国家総合職試験,  
 国Ⅱ→国家Ⅱ種行政職試験→(新試験) 国家一般職(大卒程度)試験(行政),  
 地上→地方上級試験, 国税→国税専門官試験, 公認→公認会計士試験,  
 中小→中小企業診断士試験, 不動→不動産鑑定士試験


# 講義を始める前に


ここでは、これから学習を進めるマクロ経済学とはどのようなものか、という点について確認します。ガイダンスとして活用してもらえることを期待しています。


: マクロ経済学の学習に入る前に、基本的な考え方について学習しておきましょう。


  : はい。よろしくお願いします。


: マクロ経済学とは、一言で言うと、国民所得理論になります。これは国全体の経済の動きを観測することを意味しています。そしてそれをもとに、その国で失業が発生している場合やインフレが発生している場合に、政府が政策でもって経済に介入して、その国の経済活動を安定化させようとするものです。


: 国全体の経済を意味するから、マクロ経済というのですね。

: そうですね。ミクロ経済は、特定の財の分析でしたが、マクロ経済は、その国全体の経済活動の分析になります。

: マクロ経済学の意味はわかったのですが、失業やインフレが発生しているときには、政府が介入しなければ経済は安定しないのですか。ミクロ経済学では、原則として政府の介入によって資源配分の効率性が損なわれたような気がしたのですが…。

: いい質問ですね。実はマクロ経済学には大きな2つの流れがあって、政府の政策は必要だというケインズ派の流れと、そのような政策は必要ないという古典派の流れがあります。前者のケインズ派は名前どおり、ジョン・メイナード・ケインズ (John Maynard Keynes, 1883～1946) が1936年に『雇用、利子および貨幣に関する一般理論』を発表してから注目されるようになった考え方を主張するグループで、不完全競争のもとで均衡が存在するとした上で、その均衡を完全雇用に移行するためには政府の政策が必要であると主張するものです。アメリカにおけるF. ルーズベルト大統領による「ニューディール政策」の理論的根拠にもなりました。この結果、古典派経済学との対立が起き、2つの流れが起こったのです。


: 古典派経済学はケインズの逆なのですか。

: そのとおりです。古典派については、やや詳しく説明しておく必要がありますね。少し長くなりますが聞いておいてください。







  : はい。

 : 古典派経済学 (Classical economics) とは、基本的には18世紀後半から19世紀前半の頃に始まる経済学を指します。この時代は経済学が学問として確立されてきた時代になります。アダム・スミス、デビッド・リカード、あるいはマルサスや J. S. ミルといった人物が活躍した時代です。その後19世紀の後半に「限界革命」と呼ばれる学問的發展を遂げて、新古典派経済学 (Neoclassical economics) へと移行します。「限界革命」とは、ミクロ経済学で学習する限界効用や限界費用といった概念のことですね。19世紀の後半にこのような考え方が生まれてきたのでした。やがてマーシャル (Alfred Marshall, 1842～1924) によってこの考え方が集大成され、「新古典派経済学」として成立しました。この「新古典派経済学」は、弟子のピグーらによって継承されていきます。専門家の間では原則として「新古典派経済学」というこのマーシャル経済学を指します。しかし、資格試験ではこれが異なります。

 : なんだかややこしくなってきたなあ…。

 : 戦後になりますが、ケインズ経済学の隆盛をむかえた後に対立が起こり、サミュエルソンによる新古典派総合というケインズと古典派を融合するという時代を経たりもするのですが、1970年代あたりから、ケインズ経済学の問題点が露呈したため、それとともにフリードマンらをはじめとして、古典派の経済学の考えが復活してきます。この頃の古典派経済学を「新しい古典派経済学 (New classical economics)」などといったりします。この「新しい古典派経済学」のことを資格試験では、「新古典派経済学」と呼んでいます。

 : マーシャルの経済学と1970年代以降の経済学ではどの部分が異なるのですか。

 : この本の後半で学習することになるのですが、新しい古典派経済学では「短期」と「長期」という概念が入ってきます。「長期」という状態が、マーシャルが想定する経済学の世界になるのですが、その長期に至るのには時間がかかるため、一時的には「短期」というマーシャルの想定する状態とは異なる状態が存在すると考えるわけです。細かい部分はこの本の後半で学習していくことにしましょう。新古典派経済学についての理解を混乱すると、これから先の学習に影響が出るの

で、図でポイントをまとめておきます。図で経済学の歴史的な流れも確認しておいてください。


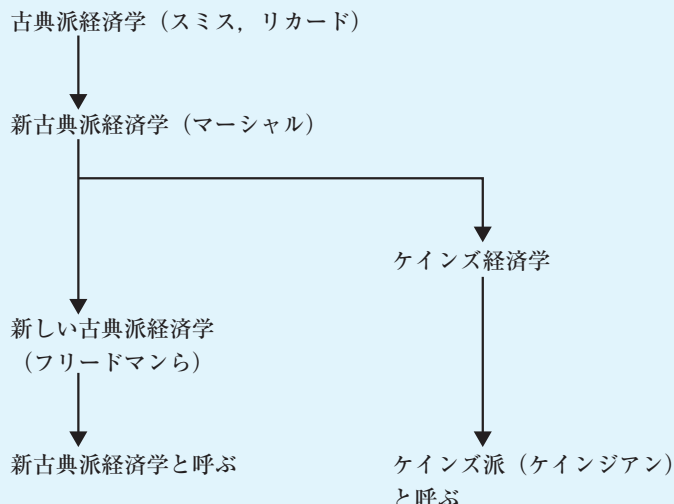

 : はい。わかりました。



図 1



※現代のマクロ経済学には、2つの大きな流れがあることを確認しておいてください。

 : それでは最後に、マクロ経済学で登場する3つの市場とマクロ経済学全体の体系を見ておきましょう。



### ことばの意味

**財市場**：一国全体の「財」に注目する市場。その国全体の財の総需要と総供給から国民所得を求める。

**貨幣市場**：一国全体の「貨幣」に注目する市場。貨幣の需要と供給から利子率を求める。

**労働市場**：一国全体の「労働」に注目する市場。労働の需要と供給から賃金水準を求める。

マクロ経済学には大きく分けて、上のような3つの市場があります。これ

らの市場から一国全体の国民所得を分析することになりますが、財市場のみで分析する単元、財市場と貨幣市場から分析する単元、および財市場、貨幣市場、労働市場の3つから分析する単元があります。徐々に難しくなりますので、確実に理解しながら進んでいかれることを望みます。

## マクロ経済学の体系

### 1 国民所得の概念

国民所得の定義について学習する。

### 2 国民所得決定理論【45度線分析】

財市場の分析からその国の国民所得を考える。

### 3 IS-LM分析

財市場と貨幣市場の分析からその国の国民所得を考える。

### 4 AD-AS分析

財市場と貨幣市場と労働市場からその国の国民所得を考える。


### 5 経済成長理論

その国の最適な経済成長を考える。

(発展的な内容なので、本書では扱わない)

### 6 国際マクロ経済学

外国部門を含めたマクロ経済学

: とりあえず3つの大きな市場があるということを知っておけばいいですね。


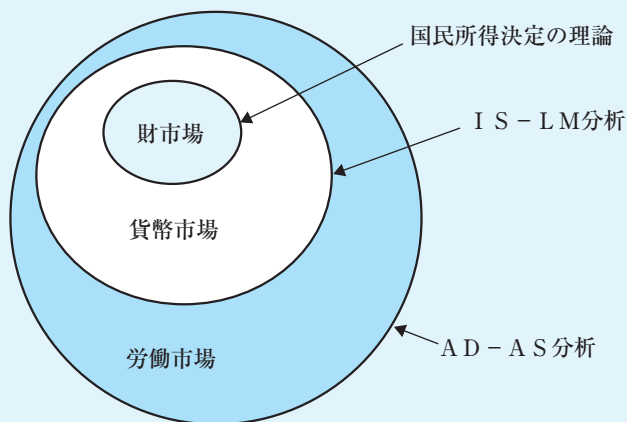

: そうだね。あとこれらの単元の中で、特に重要になるのが2, 3, 4になるので、これを図示しておきます。



図 2



この関係を理解してから学習を始めるのと、理解しないで始めるのとでは、マクロ経済学全体の理解度に大きく差が出るので、今のうちによく確認しておいてくださいね。それでは、これくらいにしておきましょう。


 : はい、ありがとうございました。






## Part 2

### 0-2


### 数式について

: 本格的な学習に入る前に、ここでは、マクロ経済学で多く見られる数式である差分方程式について学習しておきましょう。

 : はい。よろしくお願いします。


: でも、数学は苦手だから不安です。




: 心配しないでください。難しくないですよ。下の式を見てください。

$$Y = C + I + G$$

このような式があったとしましょう。これは次のStageで学習する国内総生産（GDP）というもののなんだけど、Yが国内総生産（GDP）、Cは消費、Iは投資そしてGは政府支出になります。とりあえずここでは項目を覚える必要はないので、式の形だけ確認してください。

: 式の形は、単なる足し算の式ですけど、この式をどうするのですか。

: この式に数値を代入しますね。いま、

$$C = 100, \quad I = 50, \quad G = 50$$

だとしましょう。このときYの値はいくらになりますか。


: 代入すると、


$$\begin{aligned} Y &= C + I + G \\ &= 100 + 50 + 50 = 200 \end{aligned}$$

になります。


: そうですね。Y=200となりました。


: これならボクでも簡単なのですが、何か意味があるのですか。

: まあ、あわてないでください。マナブ君、いまこの数値から、Gが60に変化するとしましょう。そうするとYはいくらになりますか。

: えーと、210になると思います。

: そうですね。これはどのようにして求めたのですか。

: えーと、 $100 + 50 + 60 = 210$ で求めました。

: なるほど、そのとおりですね。ところではじめのYに比べて、10だけ増加していますが、なぜ10だけ増加したのですか。



🐘: なぜかという、Gが50から60になったからじゃないですか。

🐘: そうですね。では同様に、Gが60、Cが120、Iが70に変化したとしましょう。そうするとYはいくらになりますか。

🐘: 250になります。

🐘: どのようにして求めたのですか。

🐘:  $120 + 70 + 60 = 250$ で求めました。

🐘: そうですね。そのとおりです。そこで、この変化における増加した分だけを取り出して考えてみましょう。

$$Y = C + I + G$$

(はじめ)  $200 = 100 + 50 + 50$   
(変化後)  $250 = 120 + 70 + 60$



Yが50増加しているのですが、これはCが20、Iが20、Gが10増加したから、このようになりました。このことを式で表現すると次のようになりますね。

増加分をとる

$$(250 - 200) = (120 - 100) + (70 - 50) + (60 - 50)$$



🐘: これもボクにとっては難しくないです。楽勝ですね。

🐘: 楽勝と言ってくれるのはありがたいことです。ではこの増加分（変化分）を一般的な形で表現してみましょう。通常、増加分（変化分）は $\Delta$ （デルタ）という記号をつけて表現するので、それに従って表現すると、


増加分をとる


$$\Delta Y = \Delta C + \Delta I + \Delta G$$


となります。 $\Delta Y$ とは、Yの増加分（変化分）のことです。上の例でいうなら50のことになります。同様に、 $\Delta C$ とはCの増加分（変化分）、 $\Delta I$ はIの増加分（変化分）、 $\Delta G$ はGの増加分（変化分）になります。このように文字で表すことができますが、増加分（変化分）に注目して表したこの式を**差分方程式**といいます。


🐘: ユウゾウ先生！ いま気付いたのですが、この差分方程式は、はじめの式の記号の文字の前に、 $\Delta$ （デルタ）をつけた形になっているように思うの


ですが、正しいですか？


: アキコさんはいいところに気付きましたね。実は差分方程式は、基本的には、もとの式の文字の前に $\Delta$ （デルタ）をつけることで求められます。

: ユウゾウ先生！ これはすべての場合に成り立つのですか。もし成り立つのなら、すごく便利なのですが…。

: すべての場合に成り立ちます。ですから増加分（変化分）の式といわれたら、はじめの式の文字の前に $\Delta$ （デルタ）をつけて求めてくださいね。

: なーんだ。簡単でよかった。

: 私もホッとしました。

: それでは練習として、次の式の増加分（変化分）をとってみてください。

$$Y = C + I + G + X - M$$


: えーと、文字の前に $\Delta$ （デルタ）をつければ求められるので、

$$\Delta Y = \Delta C + \Delta I + \Delta G + \Delta X - \Delta M$$

でいいのかな。


: 正解です。それでは次の式はどうか。

$$C = C_0 + c Y \quad (C_0 \text{ と } c \text{ は定数})$$

: えーと、少し難しいですね。でも増加分（変化分）の式だから、定数のような変化しない文字に注意すると、

$$\Delta C = c \Delta Y$$


になるのじゃないかしら。

: そのとおりです。よくできました。重要なことなのですが、増加（変化）しないものは、 $\Delta$ （デルタ）をつけてはいけません。 $C_0$ は定数と書かれていましたね。だから $\Delta C_0$ としてはいけません。差分方程式では消してください。また、 $Y$ の係数となっている $c$ も定数ですので、 $\Delta$ をつけてはいけません。ただし、 $c$ については掛け算で $Y$ とつながっているので、消さずにそのままにしてください。この2点に注意するようにしてください。資格試験では、 $C = 65 + 0.8 Y$ のような形の式が出てきて、その差分方程



式を求める場合がよくあります。このような場合は、定数である65は増加（変化）しないので、 $\Delta C = 0.8 \Delta Y$ となりますね。





 : はい、わかりました。

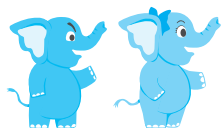
### ポイント

#### 差分方程式の作り方

与えられた式の、変化する文字の前に $\Delta$ （デルタ）をつけると、その式の差分方程式になる。ただし、変化しない値は消すこと。

 : それでは、これで終わりにしましょう。

 : ありがとうございます。





# I N D E X

## 英字(A～Z)

AD-AS分析	322
AD曲線	284,288,289,298
AD曲線のシフト	292,294
AS曲線	298,303,311
AS曲線のシフト	315
BP	388
BP曲線	388
C+R	157
CD	155,156
GDE	27
GDP	12,14,15
GNI	22,23
GNP	23
IS曲線	194,197
IS曲線のシフト	203
ISバランス式	92
ISバランス論	91
Jカーブ効果	379
LM曲線	206
$M_1$	155
$M_2$	155
$M_2 + CD$	156
$M_3$	155
SNA	23

## ア 行

安全資産	137
インフレ	332

インフレーション	332
インフレギャップ	94,96,97
インフレ率	342
売りオペレーション	177
営業余剰	26
円高	375,376
円安	375,376

## カ 行

買いオペレーション	176
海外からの純要素所得	22
外貨準備増減	365,366
外国為替	369,370
拡張的財政政策	226
可処分所得	72
価値尺度機能	125,127
価値保蔵機能	126,127
貨幣	137
貨幣供給	154
貨幣錯覚	351
貨幣市場の均衡	186
貨幣需要	148
貨幣乗数	159,161
貨幣数量説	188,242,243,244
貨幣の3機能	124
貨幣の流通速度	188
為替	369
為替差損	379
間接税	26

## ＜執筆＞

### 宮本裕基（みやもと・ひろき）

慶應義塾大学経済学部卒業，同大学大学院経営管理研究科修士課程修了。

中高一貫の進学校での教員やシンクタンクでの経済分析研究員としての勤務等を経た後に1998年よりLEC専任講師となり，経済学，経営学を中心に様々な資格試験を目指す多くの受講生に講義，指導，サポートをしている。MBAコースを修了していることもあり，講義では抽象的で堅苦しく難しいテーマよりも，身近なわかりやすい具体例を取り入れた話題が多く出る点が特徴。

## 宮本裕基のスッキリわかるマクロ経済学

---

2007年7月5日 第1版 第1刷発行

2012年1月10日 第4刷発行

執筆●宮本 裕基

編著者●株式会社 東京リーガルマインド

LEC総合研究所 公務員試験部

---

発行所●株式会社 東京リーガルマインド

〒164-0001 東京都中野区中野4-11-10

アーバンネット中野ビル

☎03(5913)5011(代表)

☎03(5913)6336(出版部)

☎048(999)7581(書店様用受注センター)

振替 00160-8-86652

[www.lec-jp.com/](http://www.lec-jp.com/)

---

本文フォーマットデザイン&カバーイラスト●デザインスタジオ ケイム

カバーデザイン●エー・シープランニング 千代田 朗

印刷・製本●秀英堂紙工印刷株式会社

---

©2007 TOKYO LEGAL MIND K.K., Printed in Japan

ISBN978-4-8449-0411-3

複製・頒布を禁じます。

本書の全部または一部を無断で複製・転載等することは，法律で認められた場合を除き，著作権者及び出版者の権利侵害になりますので，その場合はあらかじめ弊社あてに許諾をお求めください。

なお，本書は個人の方々の学習目的で使用していただくために販売するものです。弊社と競合する営利目的での使用等は固くお断りいたしております。

落丁・乱丁本は，送料弊社負担にてお取替えいたします。出版部までご連絡ください。

ISBN978-4-8449-0411-3

C3333 ¥1500E



9784844904113

定価1,575円 本体1,500円 +税5%  
KD00411



1923333015000



宮本裕基のスッキリわかる  
**マクロ経済学**

